

関西学院初等部 1年 聖書科 シラバス〔保護者用〕

◇1年聖書科の目標

- ・ 関西学院が大切にしているキリスト教に親しみを持ち、人間を超えた目には見えない存在に心を向けて、心静かに祈りができる姿勢を身につける。自分のための祈り、また他者のために祈ることのできる心を養う。
- ・ 新約聖書を通して、イエス・キリストのご生涯をたどりながら、イエス・キリストという存在に親しみを覚える。またキリスト教の祝祭日であるイースター、ペンテコステ、クリスマスなどの意味を学び、それぞれの行事に込められたメッセージを知る。
- ・ 旧約聖書の「創世記」から旧約聖書物語の面白さを学ぶ。
- ・ 様々な聖書の教えを通して、何よりも自分が「愛されている」存在であることを知り、どのような境遇にあっても希望をもって生きうることを学ぶ。
- ・ いつも自分を愛し支えくれる家族や様々な人々に心を向け、小さなことにも感謝の気持ちをもつことができる。
- ・ 関西学院の歴史を学び、関西学院が大切にしている建学の精神、スクールモットーについて学び、関西学院に学ぶことを誇りに思う。

◇1年聖書科の学習計画

	単 元 名	学 習 の 概 要
一 学 期 12 W (12)	<p>◎たからさがしをはじめよう</p> <p>◎お祈りってなあに？ ○感謝できることは？ ○みんな神さまにつながっている ○お祈りをしてみよう！</p> <p>◎みんなの宝物になるもの —聖書・讃美歌—</p> <p>◎イエスさまってどんなお方？ Part1 ○イエスさまのご生涯をたどろう ・ イエスさまのお誕生 ・ 少年時代のイエスさま ・ 12人を弟子にするイエスさま</p> <p>◎いつもありがとう！の気持ちをこめて —花の日を覚えて—</p>	<p>◎初等部6年間の生活を始めるにあたって、子どもたちの心の中にある目に見えない宝物に気づき、その宝物を育てていくスタートに立っていることを学びます。</p> <p>◎キリスト教にとって大切な「祈り」について学びます。初等部では「祈り」を特に大切なものと考えており、「祈り」を通して子どもたちは目に見えない神様の存在を意識するようになります。人間を超えた存在である神様に自分の願いや、感謝の気持ちを素直な言葉にして祈れるきっかけを授業では提供します。</p> <p>◎「聖書」が特別な本であることを学び、今も、そしてこれから子どもたちにとって必ず意味のある本になることを学びます。また「讃美歌」も聖書と共に大切な歌集であることを学びます。</p> <p>◎新約聖書に記されているイエス・キリストのご生涯を、ビデオや紙芝居などを用いてたどりながら、まずイエス・キリストがどのようなお方であるかを知り、親しみを感じられるようにします。そしてイエス・キリストのご生涯を通して、イエス・キリストの生き方が、人間を愛する働きであることを知り、自分たちもまたその愛の中に生かされていることを学びます。</p> <p>◎キリスト教会の行事として守られている「花の日」（「キリスト教のしおり」もご参照ください）を覚えて、日頃私たちがお世話になっている様々な人々に心を向け、感謝する心を養います。学校行事として行われる花の日施設訪問に持参するメッセージカードを心を込めてクラスごとに作成します。</p>
二 学 期 14 W (14)	<p>◎おじいさん・おばあさんに温かい心を届けよう！—敬老の日を覚えて—</p> <p>◎関西学院の誕生日がやってくる！ —学院創立記念日を覚えて—</p> <p>◎イエスさまってどんなお方？Part2 ○イエスさまのご生涯をたどろう ・ 教えられるイエスさま ・ 病気の人をいやされるイエスさま ・ 不思議な奇跡をおこされるイエスさま</p> <p>◎収穫をともに感謝しよう！</p> <p>◎アドベントってなあに？</p>	<p>◎「敬老の日」を覚えて、自分たちのおじいさんやおばあさんのことを大切に思う気持ちを養います。聖書でも高齢は神様の祝福の対象であることを学び、子どもたちを愛してくださるおじいさん、おばあさんに心を向ける時間を過ごします。</p> <p>◎関西学院の創立記念日を覚えて、関西学院の歴史を学び、関西学院の誕生日を感謝をもって迎えることができるようになります。また関西学院の建学の精神とスクールモットーである Mastery for Service の意味を1年生なりに理解できるような授業をします。</p> <p>◎Part1に引き続き、新約聖書に記されているイエス・キリストのご生涯を、ビデオや紙芝居などを用いてたどり、イエス・キリストがどのようなお方であるかを知り、親しみを感じられるようにします。特にイエス・キリストが困難の中にある人々との関わりの中から、人としてどのように生きるべきかを学びます。</p> <p>◎キリスト教会の行事として守られている「収穫感謝日」（「キリスト教のしおり」もご参照ください）を覚えて、神様からいただいている様々な自然の恵みを覚え、日頃当たり前とと思っていることにも感謝できる心を養います。</p> <p>◎クリスマスを迎える「アドベント」の意味を学び、イエス・キリストの誕生を心か</p>

	◎クリスマスってなあに？	ら「待つ」姿勢を養います。「待つ」ことの大切さと、「待つ」ことによって与えられる大きな「喜び」を学びます。 ◎キリスト教の三大祝祭日の一つである「クリスマス」について、聖書に記されているクリスマス物語をたどりながら、クリスマスの本当の意味を学びます。またそこで学んだクリスマスの精神をいかに自分の生活の中で生かすべきかを子どもたちと共に考えます。
三 学 期 9 W (9)	◎イエスさまってどんなお方？ Part3 ○イエスさまのご生涯をたどろう ・ 悲しんでいる人を慰めてくださるイエスさま ・ みんなを愛してくださるイエスさま ・ 苦しまれるイエスさま ・ 十字架にかけられたイエスさま ・ よみがえられたイエスさま	◎Part2に引き続き、新約聖書に記されているイエス・キリストのご生涯を、ビデオや紙芝居などを用いてたどり、イエス・キリストがどのようなお方であるかを知り、親しみを感じられるようにします。特にイエス・キリストがいかに人々を愛してくださったのかを学び、またイエス・キリストの十字架と復活という子どもたちにとっては難しい内容、このキリスト教の中心的なメッセージを子どもたちなりに考えたいと思います。また子どもたち自身がイエス・キリストの物語を演じるなど、より親しみをもてるような工夫を取り入れます。

◇指導の工夫

<視聴覚教材の活用>

視聴覚教材を積極的に活用し、イメージを膨らませながら楽しく新約聖書のイエス様の生涯について学べるようにします。

<動的な活動>

子どもたちが実際にイエス様の物語を演じることによって、さらにイエス様に親しみをもてるようにします。

<グループ活動>

様々なことをグループで相談をしながら、互いの良さを分かち合います。時にはグループでワークシートや工作をし、楽しみながら聖書の物語に親しめるようにします。

<家庭との連携>

子どもたちにとって最も身近な存在であるご家族の方々へのインタビューする機会などをもうけ、ご家族との対話の中から大切なことに気づくようにします。

<ふりかえり>

日々の生活の中で感謝したことを授業のはじめに短く発表しあうことを通して、日頃当たり前と思っている小さなことにも感謝する心を養います。またその成果を児童礼拝などで生かします。

<宗教行事との連携>

初等部で行われる宗教行事（特別礼拝）に対応して、キリスト教の祝祭日についての基本的な知識を学び、意味を理解した上で宗教行事を守れるようにします。

<他教科との連携>

「母の日」や「敬老の日」などの子どもたちの家族が関係するプログラムについては、生活科などと連携をしながら活動の内容を深めます。

◇評価観点

- ・ イエス・キリストがどのような生涯を歩まれたのかを理解しているか。
- ・ 心を静め、祈る姿勢をもっているか。
- ・ 自分を支えてくれる家族や様々な人々に感謝し、心を込めたメッセージを伝えているか。
- ・ キリスト教の祝祭日に親しみ、それぞれの意味を1年生なりに理解しているか。

◇使用するテキスト類

- ・ 『聖書 新共同訳』日本聖書協会
- ・ 『讃美歌21』『こどもさんびか』日本キリスト教団出版局
- ・ 単元別プリント等

◇保護者のみなさまへ

- ・ 1年生では、子どもたちがはじめてキリスト教に触れるということを前提に、まずはキリスト教や聖書に親しむことを大切に授業をすすめていきたいと思っております。特に「祈り」を通して、目に見えない人間を超えた存在を意識し、自分の願いや他者の願いを自分の願いとしながら、他者のためにも祈ることのできる心を養いたいと願っています。ご家庭にあっても、子どもたちがお祈りをすることがあると思いますが、暖かいまなざしで見守っていただければと思います。
- ・ 子どもたちには、日々の生活の中で、どんなに小さなことにも感謝できる心をもってもらいたいと願っています。お子様との対話の中で、今日はどんなことが嬉しかったか、どんなことに感謝をしたかを話し合うような時間を大切にいただければ幸いです。聖書の授業の中でも、子どもたちの感謝の心をクラス全体で分かち合えるようなプログラムも考えています。

関西学院初等部 2年 聖書科 シラバス〔保護者用〕

◇2年聖書科の目標

- ・関西学院が大切にしているキリスト教に親しみを持ち、人間を超えた目には見えない存在に心を向けて、心静かに祈りができる姿勢を身につける。自分のための祈り、また他者のために祈ることのできる心を養う。
- ・新約聖書を通して、イエス・キリストのご生涯をたどりながら、イエス・キリストという存在に親しみを覚える。またキリスト教の祝祭日であるイースター、ペンテコステ、クリスマスなどの意味を学び、それぞれの行事に込められたメッセージを知る。
- ・旧約聖書の創世記から旧約聖書物語の面白さを学ぶ。
- ・様々な聖書の教えを通して、何よりも自分が「愛されている」存在であることを知り、どのような境遇にあっても希望をもって生きうることを学ぶ。
- ・いつも自分を愛し支えくれる家族や様々な人々に心を向け、小さなことにも感謝の気持ちをもつことができる。
- ・関西学院の歴史を学び、関西学院が大切にしている建学の精神、スクールモットーについて学び、関西学院に学ぶことを誇りに思う。

◇2年聖書科の学習計画

	単 元 名	学 習 の 概 要
一 学 期 12 W (12)	<p>◎イースターってなあに！</p> <p>◎イエスさまのお弟子さんってどんな人たちだろう？</p> <p>◎イエスさまが教えてくださったお祈り ○主の祈りを祈ってみよう ○主の祈りの意味を考えてみよう ○主の祈りを覚えてみよう！</p> <p>◎ペンテコステってなあに？</p> <p>◎感謝の気持ちをもって一花の日を覚えてー</p>	<p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「イースター（復活祭）」について、聖書に記されているイースターの物語をたどり、その意味を考えます。イエス・キリストの復活の出来事を通して、復活されたイエス・キリストが、今も共にいて私たちを守ってくださること、また死がすべての終わりではないことを学びます。</p> <p>◎新約聖書にはイエス・キリストの12人の弟子が登場し、新約聖書の様々な物語の中で大切な役割を担っています。この単位ではイエス・キリストの弟子たちがどのような人たちであったのかを学び、しかもその弟子たちが立派な人間なのではなく、人間的な弱さをもった存在であったことを知り、自分もまた弱さをもっているイエス・キリストに愛される存在であることを学びます。</p> <p>◎イエスさまが「こう祈りなさい」と教えてくださった「主の祈り」について学びます。この祈りはキリスト教にとって最も大切な祈りであり、関西学院でもあらゆる機会にこの「主の祈り」を祈ります。「主の祈り」の言葉には一つひとつ深い意味があり、子どもたちが短時間でそれを理解することは難しいですが、この単位では「主の祈り」の最も大切な精神を学び、「主の祈り」を覚えて礼拝などで繰り返し祈ることを通してより深くこの祈りの精神を学んでいきます。</p> <p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「ペンテコステ（聖霊降臨日）」について、聖書に記されているペンテコステの物語をたどり、その意味を考えます。ペンテコステを象徴する「風」「息」というものを、それらを実際に感じられる工夫をしながら、目に見えなくても確かに存在するものがあることを知り、目に見えない神様の力（聖霊）によって自分たちも守られていることを学びます。</p> <p>◎キリスト教会の行事として守られている「花の日」（「キリスト教のしおり」参照）を覚えて、日頃私たちがお世話になっている様々な人々に心を向け、感謝する心を養います。学校行事として行われる花の日施設訪問に持参するメッセージカードを心を込めてクラスごとに作成します。</p>
二 学 期 14 W (14)	<p>◎旧約聖書はおもしろいぞ！Part1 ○「天地創造」（聖書：創1:1-3:24） ○「ノアの箱舟」（聖書：創6:1-9:28）</p> <p>◎おじいさん・おばあさんに暖かい心を届けよう！ー敬老の日を覚えてー</p> <p>◎関西学院の誕生日がやってくる！ー学院創立記念日を覚えてー</p> <p>◎収穫をともに感謝しよう！</p> <p>◎イエスさまがやってくる</p> <p>◎クリスマスがやってくる！</p>	<p>◎旧約聖書の中に記されている物語の中から、特に有名な物語を取り上げ、2年生から5年生にかけてそれぞれ順番に学んでいきます。2年生では「天地創造」「ノアの箱舟」の物語を視聴覚教材などを通して学び、そこに込められている「神様の愛」のメッセージを探ります。</p> <p>◎「敬老の日」を覚えて、自分たちのおじいさんやおばあさんのことを思い、心をこめてメッセージを考えカードを作成します。聖書でも高齢者は神様の祝福の対象であることを学び、子どもたちを愛して下さるおじいさん、おばあさんに心を向ける時間を過ごします。</p> <p>◎関西学院の創立記念日を覚えて、関西学院の簡単な歴史を学び、関西学院の誕生日を感謝をもって迎えることができるようにします。また関西学院の建学の精神とスクールモットーであるMastery for Serviceの意味を心に刻む機会とします。</p> <p>◎神様からいただいている様々な自然の恵みを覚え、日頃当たり前とされていることにも感謝できる心を養います。</p> <p>◎クリスマスを迎える「アドベント」の意味を学び、イエス・キリストの誕生を心から「待つ」姿勢を養います。「待つ」ことの大切さと、「待つ」ことによって与えられる大きな「喜び」を学びます。</p> <p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「クリスマス」について、聖書に記されているクリスマス物語をたどり、クリスマスの本当の意味を考えます。そこで学んだクリスマスの精神をいかに社会の中で生かすべきかを子どもたちと共に考えます。</p>

三 学 期 9 W (9)	<p>◎あなたの代わりは誰もいない！ 聖書：「迷い出た羊のたとえ」 (ルカ 15:3-7)</p> <p>◎招いてくださるイエスさま！あなたはひとりぼっちじゃない！ 聖書：「徴税人ザアカイ」 (ルカ 19:1-10)</p> <p>◎レントってなあに？</p>	<p>◎一人ひとりがかげがえのない「いのち」を与えられ、その「いのち」を愛してくださる存在がいることを学びます。特に新約聖書のイエス・キリストが語られた「迷い出た羊のたとえ」(ルカ 15:3-7)を教材とし、迷い出た一匹の羊のために、いのちがけで探し、見出し、喜んでくださる羊飼いの姿の中に、弱い者、小さい者をも顧みて下さるイエス・キリストの深い愛を学びます。</p> <p>◎自分が愛されていることを知り、他者を愛する生き方へと変えられる喜びを学びます。特に新約聖書に記されている、孤独で心が満たされずにいたザアカイの物語(ルカ 19:1-10)を教材として、生きる意味を見失ってしまった一人の人間が、イエス・キリストと出会うことによって平安を見出し、その孤独な人生から解放された物語を学び、イエス・キリストの愛に触れることによって、喜びをもって他者を愛する生き方へと変えていただく恵みを知ります。</p> <p>◎キリスト教にとって大切な意味をもつイエス・キリストのご受難と十字架の出来事を、新約聖書の物語を通して学び、イエス・キリストが私たちのために苦しみ、十字架にかかってくくださったことを知ります。イエス・キリストのご受難の出来事の中に、神様の最も大きな愛があることを知り、自分もまた他者のために何ができるか、そしてどう生きるべきかを考えます。</p>
--------------------------------------	--	---

◇指導の工夫

<視聴覚教材の利用>

視聴覚教材を積極的に活用しながら、子どもたちが旧約聖書、新約聖書に親しめるようにします。

<自分で考える環境づくり>

聖書が語りかけているメッセージを、子どもたちなりによく考え、またグループで意見を出し合いながら大切なことに気づいていける環境をつくります

<教材の活用>

単元内容に関連したワークシートや工作などによって、楽しみながら聖書の物語に親しめるようにします。

<ご家庭との連携>

子どもたちにとって最も身近な存在であるご家族の方々へのインタビューなど、ご家族との対話の中から大切なことに気づくようにします。

<ふりかえり>

感謝の心を養うために、授業毎に一週間の生活の中で感謝したこと、感謝したいことを振り返る時間をもうけます。またその成果を児童礼拝などで生かします。

<宗教行事との連携>

初等部で行われる宗教行事(特別礼拝)に対応して、キリスト教の祝祭日についての基本的な知識を学び、意味を理解した上で宗教行事を守れるようにします。

<他教科との連携>

「母の日」や「敬老の日」などの子どもたちの家族が関係するプログラムについては、生活科などと連携をしながら活動の内容を深めます。

◇評価観点

- ・キリスト教において最も大切にされている祈りの言葉である「主の祈り」を覚えているか。
- ・新約聖書の福音書に記されている「たとえ話」や物語に興味をもち、メッセージを理解しているか。
- ・旧約聖書の「天地創造」、「ノアの箱舟」の物語の内容を理解しているか。
- ・自分のためだけでなく、他者のために祈る姿勢を身につけているか。
- ・自分を支えてくれる家族や様々な人々に感謝し、心を込めたメッセージを伝えているか。
- ・キリスト教の行事に親しみ、それぞれの意味を理解しているか。

◇使用するテキスト類

- ・『聖書 新共同訳』日本聖書協会
- ・『讚美歌21』『こどもさんびか』日本キリスト教団出版局
- ・単元別プリント等

◇保護者のみなさまへ

- ・1年生でイエス様の物語を簡単に学びましたが、2年生からはもう少し具体的にイエス様の教えを学びながら、子どもたちと共に聖書の豊かなメッセージを分かち合っていきたいと思っております。聖書の授業で習ったイエス様の教えについて、ご家庭でも話をされることもあると思いますが、ぜひお子様の話に耳を傾けていただき、日々の生活の中で子どもたちが学んだイエス様の教えが生かされるように接していただければと願っております。

関西学院初等部 3年 聖書科 シラバス〔保護者用〕

◇3年聖書科の目標

- ・新約聖書を通して、他者を愛し仕える生き方へと導かれていることを学び、またいかに隣人と共に生きていくべきかを考える。
- ・旧約聖書の物語を通して、旧約聖書そのものに親しみ、キリスト教理解の基礎を築く。
- ・キリスト教の大切な行事であるイースター、ペンテコステ、クリスマスなどの意味を学び、それぞれの行事に込められたメッセージを探る。
- ・聖書の言葉によって生きる力を与えられた様々な人々の生き方を通して、困難の中にあっても希望を失わず、力強く生きようとする心を養う。
- ・自分に対する家族の愛情に気づき、感謝しようとする心を養う。また家族の一員として、家族の役に立とうとする心を育てる。
- ・関西学院の歴史を通して、関西学院が大切にしていることを改めて学び、関西学院で学べることに誇りをもつ。

◇3年聖書科の学習計画

	単 元 名	学 習 の 概 要
一 学 期 12 W (12)	<p>◎イースターおめでとう！</p> <p>◎愛するってどういうこと？ 聖書：「善いサマリア人のたとえ」 (ルカ 10:25-37)</p> <p>◎不思議な風がびゅうっと吹けば —ペンテコステを覚えて—</p> <p>◎いつもありがとう！の気持ちをこめて —花の日を覚えて—</p> <p>◎平和ってなんだろう？</p>	<p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「イースター（復活祭）」について、聖書に記されているイースターの物語を学び、その意味を考えます。イエス・キリストの復活の出来事を通して、復活されたイエス・キリストが、今も共にいて私たちを守ってくださること、また死がすべての終わりではないことを学びます。</p> <p>◎人として生きる上で、愛することほど大いなるものはありません。子どもたちと共に愛するということはどうかを考え、自分が誰かに大切にされ、愛されているという経験を振り返りながら、新約聖書に記されている「善いサマリア人のたとえ」(ルカ 10:25-37) を教材として愛することのすばらしさを学びます。</p> <p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「ペンテコステ（聖霊降臨日）」について、聖書に記されているペンテコステの物語をたどり、その意味を考えます。ペンテコステを象徴する「風」「息」というものを、それらを実際に感じられる工夫をしながら、目に見えなくても確かに存在するものがあることを知り、目に見えない神様の力（聖霊）によって自分たちも守られていることを学びます。</p> <p>◎キリスト教会の行事として守られている「花の日」（「キリスト教のしおり」参照）を覚えて、日頃私たちがお世話になっている様々な人々に心を向け、感謝する心を養います。学校行事として行われる花の日施設訪問に持参するメッセージカードを心を込めてクラスごとに作成します。</p> <p>◎子どもたちにとって平和とは何かを考えます。「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」と言われたイエス・キリストの言葉を手がかりに、子どもたちと平和について深く、かつ具体的に考えます。</p>
二 学 期 14 W (14)	<p>◎旧約聖書はおもしろいぞ！Part2 ○「アブラハム・イサクの物語」 ○「ヤコブの物語」</p> <p>◎関西学院の誕生日がやってくる！ —学院創立記念日を覚えて—</p> <p>◎収穫とともに感謝しよう！</p> <p>◎今年もアドベントが始まるよ！</p> <p>◎今年もクリスマスがやってくる！</p>	<p>◎旧約聖書の中に記されている物語の中から、特に有名な物語を取り上げ、2年生から5年生にかけてそれぞれ順番に学んでいく。3年生では「アブラハム・イサクの物語」（聖書：創12:1-25:11）「ヤコブの物語」（聖書：創1:1-3:24）を学び、そこに込められている決して変わることはない「神の愛」のメッセージを探ります。</p> <p>◎関西学院の創立記念日を覚えて、関西学院の歴史を振り返り、関西学院の誕生日を感謝をもって迎えることができるようにします。また関西学院の建学の精神とスクールモットーである Mastery for Service の意味を心に刻む機会とします。</p> <p>◎神様からいただいている様々な自然の恵みを覚え、日頃当たり前と思っていることにも感謝できる心を養います。</p> <p>◎クリスマスを迎える「アドベント」の意味を学び、イエスさまの誕生を心から「待つ」姿勢を養います。「待つ」ことの大切さと、「待つ」ことによって与えられる大きな「喜び」を知る。クリスマスを希望をもって待つために、アドベントカレンダーを作成します。</p> <p>◎キリスト教の三大祝祭日の一つである「クリスマス」について、聖書に記されているクリスマス物語を学び、クリスマスの本当の意味を考えます。そこで学んだクリスマスの精神をいかに社会の中で生かすべきかを子どもたちと共に考えます。</p>

三 学 期 9 W (9)	<p>◎ゆるすということ 聖書：「仲間を赦さない家来のたとえ」（マタ 18:21-35）</p> <p>◎感謝と喜びをもって生きるレーナ・マリア・クリングヴァルさんの生き方を通してー</p> <p>◎レントー私にできることー</p>	<p>◎他者を愛するということは、他者を「ゆるす」ことであり、同時に他者を「ゆるす」ことは自分が怒り、憎しみから自由にされることを知ります。新約聖書のイエス・キリストが語られた「仲間を赦さない家来のたとえ」（マタ 18:21-35）を教材とし、他者をゆるすことの難しさを考えながら、自分がいかにゆるされて生きているのかを子どもたちなりに考え、自分も他者をゆるして生きる喜びを学びます。</p> <p>◎生まれつき両腕がなく、左脚が右脚の半分しかないという障がいを負いながらも、喜びと希望をもって歩んでおられるレーナ・マリア・クリングヴァルさんの生き方を通して、ありのままの自分を受け入れ、くじけずに努力する姿勢を養います。</p> <p>◎キリスト教にとって大切な意味をもつイエス・キリストのご受難と十字架の出来事を、新約聖書の物語を通して学び、イエス・キリストが私たちのために苦しみ、十字架にかかってくださったことを知ります。イエス・キリストのご受難の出来事の中に、神様の最も大きな愛があることを知り、自分もまた他者のために何ができるか、そしてどう生きるべきかを考えます。</p>
--------------------------------------	--	---

◇指導の工夫

<視聴覚教材の利用>

視聴覚教材を積極的に活用しながら、子どもたちが旧約聖書、新約聖書に親しめるようにします。

<自分で考える環境づくり>

聖書が語りかけているメッセージを、子どもたちなりによく考え、またグループで意見を出し合いながら大切なことに気づいていける環境をつくります

<教材の活用>

単元内容に関連したワークシートや工作などによって、楽しみながら聖書の物語に親しめるようにする。

<ご家庭との連携>

子どもたちにとって最も身近な存在であるご家族の方々へのインタビューなど、ご家族との対話の中から大切なことに気づくようにします。

<ふりかえり>

感謝の心を養うために、授業毎に一週間の生活の中で感謝したこと、感謝したいことを振り返る時間をもうける。またその成果を児童礼拝などで生かします。

<宗教行事との連携>

初等部で行われる宗教行事（特別礼拝）に対応して、キリスト教の祝祭日についての基本的な知識を改めて学び、意味を理解した上で宗教行事を守れるようにします。

<他教科との連携>

音楽科とも連携をして、聖書科の授業で学ぶ内容にふさわしい賛美歌を歌うことを通して、聖書のメッセージをより心で感じられるようにします。

◇評価観点

- ・新約聖書の福音書に記されている物語やたとえ話の意味を、自分の生活と重ね合わせて考えているか。
- ・旧約聖書の「アブラハム、イサクの物語」、「ヤコブ物語」の内容を理解し、そこに込められているメッセージを感じ取っているか。
- ・聖書を手がかりに、「愛する」とはどういうことかを自分の生活と重ね合わせて考えているか。
- ・自分を支えてくれる家族や様々な人々に感謝し、心を込めてメッセージを伝えているか。
- ・キリスト教の行事に親しみ、それぞれの意味を理解しているか。

◇使用するテキスト類

- ・『聖書 新共同訳』日本聖書協会
- ・『讃美歌 21』『こどもさんびか』日本キリスト教団出版局
- ・単元別プリント等

◇保護者のみなさまへ

- ・初等部での生活も3年目になり、子どもたちも聖書の物語にずいぶん親しんでくる頃だと思えます。3年生からはさらに聖書の物語を具体的に学びながら、自分の生活との関わりを深く考え、自分がどのように生活をしていくべきかを考えていっていただきたいと願っています。ご家庭で聖書の話を読まれる子どもたちもいらっしゃると思いますが、子どもたちの話に耳を傾け、一緒に聖書の言葉の意味を考えていただければと思います。
- ・2年生までと同様、子どもたちには、日々の生活の中で、どんなに小さなことにも感謝できる心をもってもらいたいと願っています。お子様との対話の中で、今日はどんなことが嬉しかったか、どんなことに感謝をしたかを話し合うような時間を大切にいただければ幸いです。

関西学院初等部 4年 聖書科 シラバス〔保護者用〕

◇4年聖書科の目標

- ・新約聖書を通して、他者を愛し仕える生き方へと導かれていることを学び、またいかに隣人と共に生きていくべきかを考える。
- ・旧約聖書の物語を通して、旧約聖書そのものに親しみ、キリスト教理解の基礎を築く。
- ・キリスト教の大切な行事であるイースター、ペンテコステ、クリスマスなどの意味を学び、それぞれの行事に込められたメッセージを探る。
- ・聖書の言葉によって生きる力を与えられた様々な人々の生き方を通して、困難の中にあっても希望を失わず、力強く生きようとする心を養う。
- ・自分に対する家族の愛情に気づき、感謝しようとする心を養う。また家族の一員として、家族の役に立つとしようとする心を育てる。
- ・関西学院の歴史を通して、関西学院が大切にしていることを改めて学び、関西学院で学べることに誇りをもつ。

◇4年聖書科の学習計画

	単 元 名	学 習 の 概 要
一 学 期 12 W (12)	<p>◎イースターおめでとう！</p> <p>◎与えられた恵みをどう生かそう？ ・聖書：「タラントンのたとえ」 (マタ 25:14-30)</p> <p>◎いつも守られているーペンテコステを覚えてー</p> <p>◎感謝の気持ちをもってー花の日を覚えてー</p> <p>◎平和ってなんだろう？</p> <p>◎もうすぐリトリートキャンプ！</p>	<p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「イースター（復活祭）」について、聖書に記されているイースターの物語を学び、その意味を考えます。イエス・キリストの復活の出来事を通して、復活されたイエス・キリストが、今も共にいて私たちを守ってくださること、また死がすべての終わりではないことを学びます。</p> <p>◎新約聖書に記されている「タラントンのたとえ」（マタ 25:14-30）を教材として、自分たちにはそれぞれ神様から特別な恵が与えられていることを知り、それを他者との比較ではなく、与えられた恵みの大きさに感謝し、それを最大限に生かすことの大切さを学びます。</p> <p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「ペンテコステ（聖霊降臨日）」について、聖書に記されているペンテコステの物語をたどり、その意味を考えます。ペンテコステを象徴する「風」「息」というものを、それらを実際に感じられる工夫をしながら、目に見えなくても確かに存在するものがあることを知り、目に見えない神様の大きな力（聖霊）によって自分たちも守られていることを学びます。</p> <p>◎キリスト教会の行事として守られている「花の日」（「キリスト教のしおり」参照）を覚えて、日頃私たちがお世話になっている様々な人々に心を向け、感謝する心を養います。学校行事として行われる花の日施設訪問に持参するメッセージカードを心を込めてクラスごとに作成します。</p> <p>◎平和について考える機会が多い8月を前に、平和について考えます。「世界がもし100人の村だったら」を教材として、自分たちが生きている現実が決して当たり前のことではなく、世界の困難の中にある人々の現実を知り、自分たちがその人々と共に生きるためにはどうすればいいのかを聖書を通して考えます。</p> <p>◎4年生は2年生と共に「リトリートキャンプ」に参加します。この単元ではキャンプのテーマ、主題聖句について予備的な学びをし、子どもたちがより充実したキャンプを過ごすことができるようにします。</p>
一 学 期 14 W (14)	<p>◎旧約聖書はおもしろいぞ！Part3 ○「ヨセフの物語」 ○「モーセの物語」</p> <p>◎関西学院の誕生日がやってくる！ ー学院創立記念日を覚えてー</p> <p>◎収穫をともに感謝しよう！</p> <p>◎イエスさまを待つ心</p> <p>◎クリスマスには何をしよう？</p>	<p>◎旧約聖書の中に記されている物語の中から、特に有名な物語を取り上げ、2年生から5年生にかけてそれぞれ順番に学んでいきます。4年生では「ヨセフ物語」（創 37:1-50:26）、「モーセ物語」（出 1:1-）を学び、それぞれの物語に込められている神様の不思議な導きと愛のメッセージを探ります。</p> <p>◎関西学院の創立記念日を覚えて、関西学院の歴史を学び、関西学院の誕生日を感謝をもって迎えることができるようにします。また関西学院の建学の精神とスクールモットーであるMastery for Serviceの意味を心に刻む機会とします。</p> <p>◎神様からいただいている様々な自然の恵みを覚え、日頃当たり前と思っていることにも感謝できる心を養います。</p> <p>◎クリスマスを迎える「アドベント」の意味を学び、イエスさまの誕生を心から「待つ」姿勢を養います。「待つ」ことの大切さと、「待つ」ことによって与えられる大きな「喜び」を学びます。</p> <p>◎キリスト教の三大祝祭日の一つである「クリスマス」について、聖書に記されてい</p>

		るクリスマス物語を学び、クリスマスの本当の意味を考えます。そこで学んだクリスマスの精神をいかに社会の中で生かすべきかを子どもたちと共に考えます。
三 学 期 9 W (9)	<p>◎小さな業を用いてくださるイエス様 聖書：「五千人に食べ物を与える」 (ヨハ6:9-14)</p> <p>◎苦難の中にあっても、力強く生きる —水野源三さんの生き方を通して—</p> <p>◎レントの時を過ごす</p>	<p>◎新約聖書の「五千人に食べ物を与える」(ヨハ6:9-14)を教材とし、お弁当を捧げた子どもの小さな行為をイエス・キリストが用い祝福して下さったことを学びます。たとえ小さな業であっても、他者のために愛をもって行うならば、それは豊かに用いられることを学びます。</p> <p>◎小学校4年生の時に脳性まひとなった瞬きの詩人として有名な水野源三さんの生き方から、苦難の中にあっても感謝と喜びに満ちた人生を送ることができることを学びます。いくつかの水野源三さんの詩を教材として、聖書を通して与えられた水野さんの希望のメッセージを心に覚えます。</p> <p>◎キリスト教にとって大切な意味をもつイエス・キリストのご受難と十字架の出来事を、新約聖書の物語を通して学び、イエス・キリストが私たちのために苦しみ、十字架にかかって下さったことを知ります。イエス・キリストのご受難の出来事の中に、神様の最も大きな愛があることを知り、自分もまた他者のために何ができるか、そしてどう生きるべきかを考えます。</p>

◇指導の工夫

<視覚教材の利用>

視覚教材を積極的に活用しながら、子どもたちが旧約聖書、新約聖書に親しめるようにします。

<自分で考える環境づくり>

聖書が語りかけているメッセージを、子どもたちなりによく考え、またグループで意見を出し合いながら大切なことに気づいていける環境をつくります。

<教材の活用>

単元内容に関連したワークシートや工作などによって、楽しみながら聖書の物語に親しめるようにする。

<ご家庭との連携>

子どもたちにとって最も身近な存在であるご家族の方々へのインタビューなど、ご家族との対話の中から大切なことに気づくようにします。

<ふりかえり>

感謝の心を養うために、授業毎に一週間の生活の中で感謝したこと、感謝したいことを振り返る時間をもうける。またその成果を児童礼拝などで生かします。

<宗教行事との連携>

初等部で行われる宗教行事（特別礼拝）に対応して、キリスト教の祝祭日についての基本的な知識を改めて学び、意味を理解した上で宗教行事を守れるようにします。

<他教科との連携>

音楽科とも連携をして、聖書科の授業で学ぶ内容にふさわしい賛美歌を歌うことを通して、聖書のメッセージをより心で感じられるようにします。

◇評価観点

- ・新約聖書の福音書に記されている物語やたとえ話の意味を、自分の生活と重ね合わせて考えているか。
- ・旧約聖書の「ヨセフ物語」、「モーセ物語」の内容を理解し、そこに込められているメッセージを理解しているか。
- ・聖書を手がかりに、自分に与えられている恵みに気づき、その恵みを自分の生活の中で生かそうとしているか。
- ・自分を支えてくれる家族や様々な人々に感謝し、心を込めてメッセージを伝えているか。
- ・キリスト教の行事に親しみ、それぞれの意味を理解しているか。

◇使用するテキスト類

- ・『聖書 新共同訳』日本聖書協会
- ・『讚美歌21』『こどもさんびか』日本キリスト教団出版局
- ・単元別プリント等

◇保護者のみなさまへ

- ・3、4年生聖書科の大きなテーマは、「愛する・ゆるす」ということです。3年生、4年生では特にこのテーマに関連した聖書の言葉を学び、子どもたちに他者を愛することの喜び、そして他者をゆるすことの大切さを学んでほしいと願っています。まずご家族お一人お一人との関係の中で、愛すること、ゆるすことを体験し、その体験の積み重ねが子どもたちの人生の様々な場面で生かされていくのではないかと考えています。ご家庭においてもお子様の「愛の業」を共に喜び、さらに愛しゆるすことのすばらしさを、様々な機会に保護者の方々の経験からお話しただけいばと願っております。

関西学院初等部 5年 聖書科 シラバス〔保護者用〕

◇5年聖書科の目標

- ・初等部聖書科での学び、また礼拝や宗教行事を振り返り、自分を支え励ましてくれる聖書の言葉集をまとめ、中学部での生活に生かせるようにする。
- ・自分の「いのち」がかけがえのないものであることに気づき、他者の「いのち」もまた同様であり、その他者と「共に生きる」ことの中に人生の喜びを見い出す。
- ・社会の様々な問題にも目を向け、キリスト教的な視点から子どもたちなりに問題解決への道を模索する。
- ・キリスト教信仰をもって生きた人々の生き様を通して、困難の中にあっても希望を失わず、力強く生きるたましいを養う。
- ・関西学院の歴史を通して改めて建学の精神を学び、Mastery for Service の精神をもって生きることの喜びを知る。

◇5年聖書科の学習計画

	単 元 名	学 習 の 概 要
一 学 期 12 W (12)	<p>◎イースターおめでとう！</p> <p>◎共に喜ぼう！ 聖書：「ぶどう園の労働者のたとえ」 (マタ 20:1-16)</p> <p>◎風と息に生かされて ーペンテコステを覚えてー</p> <p>◎いつもありがとう！の気持ちをこめて ー花の日を覚えてー</p> <p>◎平和ってなんだろう？ ーコルベ神父の生き方を通してー</p>	<p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「イースター（復活祭）」について、聖書に記されているイースターの物語をたどり、その意味を考えます。イエス・キリストの復活の出来事を通して、復活されたイエス・キリストが、今も共にいて子どもたちを守ってくださること、勇気や希望を与えてくださることを学びます。</p> <p>◎新約聖書に記されている「ぶどう園と労働者のたとえ」（マタ 20:1-16）を教材として、この世的な価値観とは違う神様の価値観を知り、他者と共に喜び、共に生きることを学びます</p> <p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「ペンテコステ（聖霊降臨日）」について、聖書に記されているペンテコステの物語をたどり、その意味を考える。ペンテコステを象徴する「風」「息」というものを、それらを実際に感じられる工夫をしながら、目に見えなくても確かに存在するものがあることを知り、目に見えない神様の力（聖霊）によって自分たちも守られていることを学びます。</p> <p>◎キリスト教会の行事として守られている「花の日」（「キリスト教のしおり」参照）を覚えて、日頃私たちがお世話になっている様々な人々に心に向け、感謝する心を養います。学校行事として行われる花の日施設訪問に持参するメッセージカードを心を込めてクラスごとに作成します。</p> <p>◎平和について考える機会が多い8月を前に、5年生でも平和について考えます。日本にも滞在し、その後アウシュビッツの強制収容所で餓死刑者の身代わりとなって死んだコルベ神父を取り上げ、戦争の悲惨さと共に、その中であって自らを犠牲にしてまでも他者のために生きた神父の生き様から、どう生きるべきかを考えます。</p>
二 学 期 14 W (14)	<p>◎旧約聖書はおもしろいぞ！Part4 ○「サムエルとダビデの物語」 (聖書：サムエル記) ○「ダニエルとエステル」の物語」 (聖書：ダニエル記、エステル記)</p> <p>◎関西学院の誕生日がやってくる！ ー学院創立記念日を覚えてー</p> <p>◎収穫をともに感謝しよう！</p> <p>◎イエス・キリストをお迎えする心</p>	<p>◎旧約聖書の中に記されている物語の中から、特に有名な物語を取り上げ、2年生から5年生にかけて学びます。5年生では「サムエルとダビデの物語」「ダニエルとエステルの物語」の物語を学び、そこに込められているメッセージを探ります。</p> <p>◎関西学院の創立記念日を覚えて、関西学院の歴史を学び、関西学院の誕生日を感謝をもって迎えることができるようにします。また関西学院の建学の精神とスクールモットーである“Mastery for Service”の意味を心に刻む機会とします。</p> <p>◎神様からいただいている様々な自然の恵みを覚え、日頃当たり前と思っていることにも感謝できる心を養います。</p> <p>◎クリスマスを迎える「アドベント」の意味を学び、イエスキリストの誕生を心から「待つ」姿勢を養います。「待つ」ことの大切さと、「待つ」ことによって与えられる大きな「喜び」を知ります。</p>

	◎クリスマスのささげ物	◎キリスト教の三大祝祭日の一つである「クリスマス」について、聖書に記されているクリスマス物語を絵本や視聴覚教材などを通して学び、クリスマスの本当の意味を考えます。そこで学んだクリスマスの精神をいかに社会の中で生かすべきかを子どもたちと共に考えます。
三 学 期 9 W (9)	◎弱さを受け止めて生きる 一星野富弘さんの生き方を通してー ◎ありのままがいいよ！ 聖書：「放蕩息子のたとえ」 (ルカ 15:11-24) ◎イエス・キリストの苦しみを覚えて	◎詩人であり画家である星野富弘さんの生き方を通して、自分の弱さを受けとめ、弱さを強さへと変えてくださる神様の不思議な働きを知ります。星野富弘さんの描いた絵とそこに添えられた言葉から、弱さは決してマイナスではなく、人生にとって大切にしなければならないことを学びます。 ◎新約聖書に記されている「放蕩息子のたとえ」(ルカ 15:11-24)を通して、ありのままを受け止め、愛し続けてくださる神様の存在を知ります。またこの譬え話に登場する弟、兄、父、それぞれの立場にたつて、この「放蕩息子のたとえ」の意味を考え、グループに分かれそれぞれの立場からこの譬え話を演じてみます。 ◎キリスト教にとって大切な意味をもつイエス・キリストのご受難と十字架の出来事を、新約聖書の物語を通して学び、イエス・キリストが私たちのために苦しみ、十字架にかかってくださったことを知ります。イエス・キリストのご受難の出来事の中に、神様の最も大きな愛があることを知り、自分もまた他者のために何ができるか、そしてどう生きるべきかを考えます。

◇指導の工夫

<視聴覚教材の利用>

視聴覚教材を積極的に活用しながら、子どもたちが旧約聖書、新約聖書に親しめるようにします。

<自分で考える環境づくり>

聖書の物語の意味をグループごとに考えながら、自分たちで台本をつくり演じることにより、聖書が語りかけるメッセージを感じ取れるようにします。

<他者の生き方から学ぶ>

聖書の言葉によって、実際に力強く希望をもって生きた人々の生き方に触れることにより、聖書の言葉の力強さを感じられるようにします。

<ふりかえり>

感謝の心を養うために、授業毎に一週間の生活の中で感謝したこと、感謝したいことを振り返る時間をもうけます。またその成果を児童礼拝などで生かします。

<宗教行事との連携>

初等部で行われる宗教行事(特別礼拝)に対応して、キリスト教の祝祭日についての基本的な知識を改めて学び、意味を理解した上で宗教行事を守れるようにします。

<他教科との連携>

音楽科、社会科などと連携をしながら活動の内容を深めます。

◇評価観点

- ・新約聖書の福音書に記されている「ぶどう園の労働者のたとえ」「放蕩息子のたとえ」の意味を、自分の生活と重ね合わせて考えているか。
- ・旧約聖書の「サムエルとダビデ物語」、「ダニエルとエステルの物語」の内容を理解し、そこに込められているメッセージを理解しているか。
- ・「平和」に関心をもち、平和をつくり出そうとする意識を持っているか。
- ・聖書を手がかりに、自分の弱さを受け入れる勇気と希望をもって生きる気持ちをもっているか。
- ・キリスト教の行事に親しみ、それぞれの意味を理解しているか。

◇使用するテキスト類

- ・『聖書 新共同訳』日本聖書協会
- ・『讚美歌 21』『こどもさんびか』日本キリスト教団出版局
- ・単元別プリント等

◇保護者のみなさまへ

- ・子どもたちは、5年生にもなると、聖書の様々な物語や言葉に親しみながら、聖書の言葉を自分の生活と関連づけて理解できるようになってきます。5年生・6年生では自分という存在を改めて見つめ、弱さもまた自分の一部であることを認めて受け止めて生きることや、困難の中にあっても希望と勇気をもって生きる力強さを、聖書の言葉を通して養いたいと願っています。また自分とは違う他者と共に生きることのすばらしさや喜びを、様々な事柄を通して学んでまいります。

関西学院初等部 6年 聖書科 シラバス〔保護者用〕

◇6年聖書科の目標

- ・初等部聖書科での学び、また礼拝や宗教行事を振り返り、自分を支え励ましてくれる聖書の言葉集をまとめ、中学部での生活に生かせるようにする。
- ・自分の「いのち」がかけがえのないものであることに気づき、他者の「いのち」もまた同様であり、その他者と「共に生きる」ことの中に人生の喜びを見い出す。
- ・社会の様々な問題にも目を向け、キリスト教的な視点から子どもたちなりに問題解決への道を模索する。
- ・キリスト教信仰をもって生きた人々の生き様を通して、困難の中にあっても希望を失わず、力強く生きるたましいを養う。
- ・関西学院の歴史を通して改めて建学の精神を学び、“Mastery for Service”の精神をもって生きることの喜びを知る。

◇6年聖書科の学習計画

	単 元 名	学 習 の 概 要
一 学 期 12 W (12)	<p>◎よみがえられたイエス様</p> <p>◎大切な家族 一母の日を覚えてー</p> <p>◎不思議な力に生かされて ーペンテコステを覚えてー</p> <p>◎感謝の気持ちをもって ー花の日を覚えてー</p> <p>◎平和ってなんだろう？ーマーチン・ルーサー・キング牧師の生き方を通して考えるー</p>	<p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「イースター（復活祭）」について、聖書に記されているイースターの物語をたどりながら、その意味を改めて考えます。イエス・キリストの復活の出来事を通して、復活されたイエス・キリストが、今も共にいて私たちを守ってくださることを学びます。</p> <p>◎「母の日」を迎えるにあたって、自分は家族に支えられて生きていることを知り感謝する心を養います。家族との関わりを考えられる具体的な教材を用いながら、日常生活の中で自分が様々なかたちで愛されていることに気づき、自分は一人で生きているのではなく家族の愛によって生きていること、またそのことに対する感謝の気持ちを言葉で表現し、心をこめてメッセージカードを作成します。</p> <p>◎キリスト教の三大祝祭日のひとつである「ペンテコステ（聖霊降臨日）」について、聖書に記されているペンテコステの物語をたどり、その意味を考えます。ペンテコステを象徴する「風」「息」というものを、それらを実際に感じられる工夫をしながら、目に見えなくても確かに存在するものがあることを知り、目に見えない不思議な神様の力（聖霊）によって勇気や希望が与えられることを学びます。</p> <p>◎キリスト教会の行事として守られている「花の日」（「キリスト教のしおり」参照）を覚えて、日頃私たちがお世話になっている様々な人々に心に向け、感謝する心を養います。学校行事として行われる花の日施設訪問に持参するメッセージカードを心を込めてクラスごとに作成する予定です。</p> <p>◎平和について考える機会が多い8月を前に、6年生でも平和について考えます。アメリカ公民権運動において大切な役割を担ったマーチン・ルーサー・キング牧師の生き方を取り上げ、差別の問題やいじめの問題を共に考える機会としたいと思います。そして平和な社会を作り出していくために、自分には何ができるかを考えます。また黒人差別の中から生まれてきたゴスペルソングを聴き、その歌が生まれてきた背景や、歌詞の意味を学びます。苦しみの中にあっても希望を見失わず生きた人々の歴史を学び、自分たちもそのように生きうる道が備えられていることを学びます。</p>
二 学 期 14 W (14)	<p>◎偉大な伝道者パウロから学ぶ</p> <p>◎関西学院の誕生日がやってくる！ ー創立記念日を覚えてー</p> <p>◎かけがえのないいのちを見つめて ーマザーテレサの働きを通してー</p> <p>◎アドベントー待つ喜びを味わうー</p> <p>◎クリスマス ー与える喜びを味わうー</p>	<p>◎初期キリスト教において、大きな働きをしたパウロの生涯を学び、困難の中にあっても信じて生きることの大切さを学びます。パウロが記した新約聖書中の書簡から、特に大切な言葉を選び、彼の生き方と関連づけてその意味を学びます。</p> <p>◎関西学院の創立記念日を覚えて、関西学院の歴史を学び、関西学院の誕生日を感謝をもって迎えることができるようにします。また関西学院の建学の精神とスクールモットーである“Mastery for Service”の意味を改めて心に刻む機会とします。</p> <p>◎ノーベル平和賞受賞者であるマザーテレサの生き方を通して、社会の中で小さな存在と共に生きる喜びを学び、様々なものを分かち合って生きる姿勢を学びます</p> <p>◎クリスマスを迎える「アドベント」の意味を学び、イエス・キリストの誕生を心から「待つ」姿勢を養います。「待つ」ことの大切さと、「待つ」ことによって与えられる大きな「喜び」を知ります。</p> <p>◎キリスト教の三大祝祭日の一つである「クリスマス」について、聖書に記されているクリスマス物語を学び、クリスマスの本当の意味を考える。そこで学んだクリスマスの精神をいかに自分の生活の中で生かすべきかを子どもたちと共に考えます。</p>

三 学 期 9 W (9)	<p>◎イエス様の足跡 —新約聖書の福音書から、イエスさまの足跡をたどってみよう！—</p> <p>◎仕える生き方へ！</p>	<p>◎最終学年として、初等部の聖書科や礼拝で学んだ様々なことの集大成として、新約聖書の福音書から、イエス・キリストの歩まれた足跡をまとめます。イエス・キリストと様々な人々との出会いの出来事を思い起こし、また様々なイエス・キリストの言葉を改めてまとめながら、自分の心に残った聖書の言葉をまとめていきます。</p> <p>◎初等部最後のレントを、印象的に過ごすために、弟子の足を洗われたイエス・キリストの物語を学びます。この出来事を通して、徹底して仕える生き方を示されたイエス・キリストの働きを覚え、“Mastery for Service”の精神を今一度心に刻む時とします。</p>
----------------------------------	---	---

◇指導の工夫

<自分で考える環境づくり>

聖書が語りかけているメッセージを、子どもたちなりによく考え、またグループで意見を出し合いながら大切なことに気づいていける環境をつくります。

<他者の生き方から学ぶ>

聖書の言葉によって、実際に力強く希望をもって生きた人々の生き方に触れることにより、聖書の言葉の力強さを感じられるようにします。

<ふりかえり>

授業毎に一週間の生活をふりかえり、感謝したこと、感謝したいことを思い起こす時間をもうけ、小さな事柄にも感謝できる心を養います。またその成果を児童礼拝などで生かします。

<宗教行事との連携>

初等部で行われる宗教行事（特別礼拝）に対応して、キリスト教の祝祭日についての基本的な知識を改めて学び、意味を理解した上で宗教行事を守れるようにします。

<他教科との連携>

音楽科、社会科などと連携をしながら活動の内容を深めます。

◇評価観点

- ・キリスト教を語るうえで欠かすことのできないパウロの働きについて知識を深めているか。
- ・初等部で学んだ様々な聖書の言葉や物語を、心に残る言葉集としてまとめているか。
- ・「平和」に関心をもち、マザーテレサやマーチン・ルーサー・キング牧師の生き方を通して、平和をつくり出そうとする意識を持っているか。
- ・キリスト教の行事に親しみ、それぞれの意味を理解しているか。
- ・関西学院の歴史を振り返り、建学の精神と“Mastery for Service”の精神を理解しているか。

◇使用するテキスト類

- ・『聖書 新共同訳』日本聖書協会
- ・『讚美歌21』『こどもさんびか』日本キリスト教団出版局
- ・単元別プリント等

◇保護者のみなさまへ

- ・子どもたちはよいよ初等部での最後学年を迎えます。毎日の礼拝や季節ごとの宗教行事、また週に一度の聖書科の授業を通して、聖書の様々な言葉や物語が子どもたちの心の中に刻み込まれたことと思います。6年生ではそのひとつひとつを思い起こし、初等部での生活を振り返りながら授業を進めてまいりたいと思います。ご家庭におかれましても、お子様と初等部での生活を振り返る時間を大切にいただき、初等部で与えられた多くの恵みを子どもたちと分かち合っていたいただければ幸いです。